

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 芸術・体育教育学系

氏 名 阿部 靖子

研究期間 平成30年度～平成31年度

（令和元年度）

| | |
|-------------|---|
| 研究プロジェクトの名称 | <p>教科教育カリキュラム構想のための基礎的・実践的研究</p> <p>－「21世紀を生き抜くための能力」を育成する教科指導法の観点から－</p> |
| 研究プロジェクトの概要 | <p>今回の学部再課程認定においては、各教科指導法のコア・カリキュラムが示され、教科指導法に関わる全授業科目との対応が求められた。その中には、情報機器の活用やアクティブ・ラーニングなど、全教科に共通する内容も含まれ、今後、各教科指導法が全体として、どのようなカリキュラムを構成していくのか検討する必要がある。また、そのことが「21世紀を生き抜くための能力」を育成することのできる教員を養成することとどう関わるのか考えていくことが重要である。</p> <p>本研究は、平成31年度から実施する各教科指導法の授業に対し、担当者による情報交換および検討を通して、授業内容の充実を図るとともに、本学の教員養成カリキュラム全体を視野に入れた独自の教科教育カリキュラムの構築を目的とするものである。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>研究成果の概要</p> <p>※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。</p> | <p>平成30年度</p> <p>①コアカリキュラムで示された「情報機器の活用」を各教科でどのように指導法の授業に取り込むかについての提案や事例を研究し、さらに、プログラミング学習への各教科からのアプローチについて検討した。</p> <p>②全教科に関わる評価の問題について、ポートフォリオを中心に講演および意見交換を実施した。各教科指導法を横断的に考え、学生自ら行うポートフォリオのあり方について学ぶことができた。</p> <p>令和元年度（平成31年度）</p> <p>①再課程認定後4月からスタートした新カリキュラムの中で、コア・カリキュラムが示された教科指導法の授業科目の具体的な内容について、各教科の対応をもとに検討を行った。</p> <p>②令和2年度から始まる各教科中等指導法の授業科目と、令和3年度から始まる各教科初等指導法の授業科目の具体的な内容と準備について、それぞれの教科の発表と意見交換をもとに検討を行い、共有化を図った。</p> |
| <p>研究成果の発表状況</p> | <p>研究分担者がそれぞれ学会発表及び論文掲載、また、本学研究紀要などに成果を発表した。</p> |
| <p>学校現場や授業への研究成果の還元について</p> | <p>本学附属小・中学校の研究会において、本プロジェクトの分担者の多くが指導者・助言者として関わり、各教科における見方・考え方と教科横断的な考え方・教育内容について述べている。また、公立の小・中学校においても同様な発信を行い、教育現場に研究成果の還元を行ってきた。</p> |

【提出期限】 令和2年3月31日（火）：厳守